第１回円空大賞円空賞

筧忠治（かけひちゅうじ）

プロフィール
国籍：日本
生年：1908 年愛知県生まれ、愛知県名古屋市在住
職業：画家

作家略歴
1922 年：愛知県測候所に勤務
1923 年：独学で油彩画を始める
1924 年：サンサシオンの洋画研究所に通う
1925 年：鈴木不知の名古屋洋画研究所に入所。
　　このころから「自画像」制作を始める。
1948 年：第 2 回中部日本美術展に「母の像」を出品
1949 年：光風会展にて「ジャガイモ」が入選
1968 年：名古屋地方気象台を定年退職。鈴木不知の研究所で学んだ仲間と美術グループ独潮会を結成。
　　この年から 1974 年まで毎年 1 回の独潮会にて作品を発表。
1970 年：初めての個展を名古屋丸善ギャラリーにて開催。油彩画、素描画 32 展を出品
1972 年：2 回目の個展を名古屋丸善ギャラリーにて開催。油彩画、ペン画、コンテを発表
1974 年：銅版画制作を手がけ「猫」を制作
1975 年
-79 年：5 回にわたり銅版画研究会展に精力的に出品。
1983 年：愛知県美術館に「自画像」「風景」作品 20 点が収蔵される。
1984 年：名古屋丸善ギャラリーにて「筧忠治銅版画展」開催。以後、数々の個展を開催。
1998 年：作品集「筧忠治」発行。刈谷市美術館にて回顧展が開催される。

受賞理由
・筧忠治氏は、一画学生としての姿勢を崩さず、世評に惑わされることなく、自身の世界の創造に励み、他の人が到達できない独自の世界を築いた孤高の芸術家である。
・近現代の美術の流れに迎合せず、独自の道を歩んで築いた作品には、身近なものをモチーフとして具現化された作品が多く、時代を越えた普遍的な美を感じさせる。
・筧氏のモチーフは、「自画像」の他に、「猫」があるが、強靭な精神を希求する自身の理想像を猫に置き換え、それを銅版画によって表現している。また、3 っ目のモチーフとして「風景」があり、ゴッホのような表現主義的な技法から、繊細な線描表現へと移行し、西洋から東洋画的な表現へと移行している。
・筧氏の作品の中心となる自画像、そして母の像などの作品は、見る者に強靭な精神を感じさせ、圧倒するとともに、その心を癒してくれる点で、円空を彷彿とさせ、円空賞の受賞者としてふさわしい人物である。